

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立新宮高等学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	地域の豊かな精神的風土を背景に、美しく、たくましい自然の中で、浩(ひろ)い心(浩然(こうぜん)の気(き)=広くゆったりした強く正しい心)を養い、誇りをもって日本文化の継承・発展に努め、開かれた世界において信頼される人間を育成する。			A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
昨年度はコロナ禍により教育活動が制限されたが、その中でできることを検討し工夫して実施することで文武両道を推進した。その結果、学校満足度や地域からの期待度が更に上昇した。今年度は創立47年目にあたり、伝統校への足がかりを確固たるものにするため、校訓「畏敬」の精神を根本とし、生徒の学力向上、高い志の実現とたくましい人間力の育成のため、先見性のある計画的かつ効果的な教育活動を展開する。	・新宮町及び古賀市、福津市との連携を図りながら、地域に開かれた、地域からの要望に応える教育活動を展開する。	・総合的な探究活動等の充実を図るための町役場や地域との連携の継続		
	・理数科が本校の基軸として発展するための特色ある方策を継続する。	・理数科の広報活動や地域説明会の工夫		
	・新宮グランドデザインを踏まえ、各分掌の連携を強化し、教職員の共通理解の徹底を図る。	・3年間を見通した系統性のある授業・進路指導プランによる学力向上と高大接続改革への対応 ・難関大学進学に向けた取組の充実 ・外部模試の素早い分析と全体への周知徹底 ・ICTの活用、生徒による授業アンケート等による授業改善の取組の工夫と強化 ・部活動入部率の維持と活動実績の向上及び生徒会・委員会活動の充実		
	・異文化理解の態度育成、グローバル社会に貢献できる人材づくりを目指した英語力向上の取組を推進する。	・English Camp、短期海外研修による学びの実践 ・英語検定受験の積極的推奨		
・すべての教育活動において、自他の人権尊重の精神を養う教育活動を推進し、人権教育及び特別支援教育を充実させる。	・人権教育及び特別支援教育研修の工夫と改善 ・スクールカウンセラーの活用をはじめとする教育相談体制の充実			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務課	観点別評価を意識した授業実践	観点別学習評価を全学年で実施する。	A	一人一台クロムブックの活用もしつつ、新教育課程の教科・科目の授業研究を引き続き行う。 ・今年度の実施経験をもとに観点別学習評価の規定の微調整を行う。
		新教育課程、非常時のオンライン対応など状況の変化に対応した授業を実践する。	B	
		統合型校務支援システムや諸書式の変更及び職員研修を適宜行う。	A	
広報課	開かれた学校づくりの一環として、町唯一の高等学校の特徴を活かし、生徒の活動の様子や、学校情報の積極的な公開に努める。	新宮町おもてなし協会と連携し、西鉄電車の中吊りポスターや消防署のシャッターのデザイン作成を生徒が行える場の設定をする。	A	・TV、イベント、SNS、HP等のメディアでの広報活動を充実させる。 ・おもてなし協会との連携をさらに強め、地域に根差した学校づくりを行う。 ・中学生の体験入学をさらに充実させる。
		新宮高校の特色をまとめたリーフレットを作成し、学校訪問、塾訪問時に活用できるようにする。	A	
		本校の雰囲気、生徒の活動が伝わるようにホームページ・SNS、メディアでの発信をする。	A	
生徒指導課	生徒の社会性、規範意識を向上させる取り組みの推進	自ら基本的生活習慣を確立し、公共のマナーや交通安全など、社会性を高める取り組みを実践させる。	A	・学校行事をはじめとした様々な活動に生徒を積極的に参画させ、企画力や創造力を発揮させる場を設定するとともに規範意識や公共心を育成する。 ・教育相談を充実させ、生徒一人ひとりがよりよく学校生活を送るための支援を行う。
		よりよい人間関係の形成やいじめ問題等人間関係のトラブルを回避する取り組みや教育相談を充実させる。	A	
保健課	自己管理能力の向上及び美化意識の向上	健康診断を通して自らの健康課題に気づかせ健康的な生活習慣を身につける。また、感染症に対する予防策も意識する。	A	・健康課題に対する早期発見・早期治療の重要性を伝えることで健康診断の再受診率を高めるとともに生徒自身が健康の二次予防に努められるよう啓発していく。 ・数回の美化強化週間を美化コンクールに変え、結果が可視化できるような取り組みをする必要がある。
		生徒個々の美化意識向上を目指し、学習環境を整える。	A	
庶務企画課	学校行事や式典の円滑な運営をサポートし分掌間の連携強化に努める	関係する分掌間との連絡を密にし、状況に応じて柔軟に対応することで行事式典の運営を円滑にする。	A	・PTA役員、理事会、保護者との連絡調整にClassiを活用する。 ・庶務企画課内の業務を月別に洗い出し、見える化する。
		多岐にわたる業務内容と担当者を明確にすることで、課の組織力を高める。	A	
進路指導課	新入試への対応	課外授業や補習の時間を効果的に利用することにより、総合型選抜、学校推薦型選抜のための指導の組織化を行う。	A	・総合型選抜、推薦入試の2年次からの専門的な指導。 ・模試が連続する2学期の成績推移の把握について、文字による分析以外に視覚的にわかりやすい資料を作成、学年を超えて共有する。
		校外模試等を通し、大学入試の傾向を生徒に分析をさせ、大学入試への生徒の理解を深める。	A	
		郊外模試の結果を分析し、職員だけでなく、生徒が自分達の模試の結果を理解できる機会を定期的に設ける。	A	
総探課	探究活動の充実・発展	課題の探究プロセスにおいて具体的なアクションを起こすことにより、グランドデザインの6つの力を育む。	A	・生徒が自己の強みを発見できる探究活動を計画、実施する。 ・上記のことにより、生徒の学びに向かう力を育成する。
		社会、学問に対する見識を深め、主体的に進路を切り拓く力を育成するための探究活動を行う。	A	
図書課	開かれた図書館	様々な教育活動と図書館利用を連携させるとともに、図書館情報を定期的に発信する。	A	図書課行事の実施方法に更なる工夫を重ね、図書館来訪者および貸し出し冊数の増加を図る。
		学習と部活動の両立を可能にする生活習慣を確立させ、両者の相乗効果を高める指導を行う。	B	
1学年	基本的生活習慣の確立と学ぶ意欲の向上	進路行事や学年集会、HRなどにおいて「大学での学び」に関心を持たせる指導を行う。	A	・習熟クラス・難関大志望者への指導の工夫。 ・生徒会を中心とした生徒の学校行事・学年行事への積極的な参加を促す。
		教科の授業や課外、総合的な探究の時間を通して、思考力や表現力を高める。	A	
2学年	主体性と高い進路意識の育成	行事の準備に積極的に関わり、行事を通して新宮生の帰属意識を高めさせる。	A	・入試がある1月に成績のピークをもってくるための指導。 ・クラスによって得意科目と苦手科目が違う。担任と教科担当の連携をさらに強化する。そのクラスに合った指導を心掛ける。
		総合的な探究の時間や類型別集会を通して、無理せず合格できる大学ではなく、無理をしても行きたい大学(難関大学)を第1志望にさせることで進路意識を高めさせる。	A	
3学年	第一希望進路の実現及び団結力・リーダーシップの育成	模試ごとに素早い「分析・計画・実行」ができるように、指導する。	A	・模試成績の自己分析方法をより具体的に指導し、以後の学習計画をしっかりと立てさせ実践させる。 ・学校行事や集会等で一層生徒を関わらせ、生徒の自立・自主性・リーダー性を育成する。
		英検取得を推奨し、3年2学期までの2級取得者を累計240名以上にさせる。	B	
		学校行事を通して、指示待ち人間からの脱却を図り、自ら考えて行動させることで、リーダーとしての資質を身に付けさせる。	A	
研修課	授業改善の推進 (ALの推進と評価の研究)	ICT機器を活用した授業改善およびオンライン授業への対応の一層の促進	A	・生徒用端末の授業内での利用を促進する。 ・教員の授業改善に役立つ授業アンケートを行う。 ・先生方同士で授業を参観して学び合えるようなしなかけをつくる。
		深い学びにつながる「関連づける・説明する」活動の推進。	A	
		生徒の学びを評価する方法や基準の研究推進。	B	
理数科	生徒の探究力、表現力の伸長および広報活動の工夫・改善	理数探究の時間、課題研究、高大連携セミナー内で探究活動を複数回実施する。	A	・漂着物研究は、九州大学との良好な関係を維持し、理数科の軸となるよう、活動を充実させる。 ・校外の研究活動への積極的な参加を促す。 ・地域説明会を含めた広報活動の充実を図る。
		学年や学校を越えたつながりをつくり、研究活動を充実させる。	A	
		地域説明会の実施時期を再検討するとともに、ウェブページを定期的に更新する。	A	
事務	計画的で正確・効率的な事務執行を目指す	教育活動の充実のため、各部署とのコミュニケーションをとり費用対効果の把握に努め、予算を効率的に執行する。	A	・事務室のチームワークと情報共有に努め、計画的で正確な事務の執行を行う。 ・物品や財産の適切な管理、スリム化を行いながら教育環境の充実を図る。
		事務室内での情報共有を行い、チームワークと連携を強化し、風通しの良い事務室を目指す。	A	
		物品や財産の適切な管理と光熱水費の無駄をなくすよう努める。	B	

学校関係者評価		
評価(総合)	自己評価は	
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である	
	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
	A	総探の取組(地域交流)が大変よい。広報活動にもよく取り組んでおり、新宮中央駅の絵画等の掲示、マナーUP放送は駅を明るくしている。オンライン授業の更なる充実を図ってほしい。
	A	挨拶や公共マナーは他校の生徒の模範になっている。地域の子供の模範となる行動を期待する。部活動に更に力を入れてほしい。自転車通学の生徒の安全面の指導の充実を図ってほしい。Classiを利用したPTA役員・理事への連絡調整はすごくよかった。
	A	進路実績が年々向上している点は素晴らしく、生徒の進路実現に向けて今後も取組を進めてほしい。
A	各学年チームワークがよく教育活動に取り組んでいる。1年生の総探で町と連携し、学ぶ機会が多様化しており、良い取組ができています。文武両道の具体を生徒に示すと意識の向上につながる。2、3年の進路指導に関しては、多様な生徒に対応した指導を引き続きお願いしたい。	
	A	ICTの活用、情報モラル(SNS等)について指導力の向上を図ってほしい。
	A	様々な活動を行っており、広く深く充実した取組になっている。
	A	チームワークがよく取れている。
	評価項目以外のものに関する意見	
新宮中央駅との連携を今後も継続してほしい。		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・観点別評価やICT活用を充実させることを通して、授業改善を推進し学習意欲や学力の向上を図る。
- ・総合的な探究の時間、各種進路行事を充実させ、キャリア教育を推進する。
- ・学校行事や部活動を充実させることを通して、主体性や協調性、リーダーシップやチャレンジする態度等の育成を図る。
- ・教育活動を充実させるため地域等との連携を推進する。
- ・広報誌やホームページを用いて時宜を得た情報を発信するとともに、マスメディアを活用した広報活動を推進する。